

2面
3面
4面
5面
6面

社会運動家 賀川豊彦献身100年事業を展開

来年、東京・神戸で多彩に

明治から昭和にかけて日本の近代化に大きな功績を残し、日本の生活協同組合の「生みの親」とされる社会運動家賀川豊彦。賀川が神戸のスラム街で救貧活動を始め、100年となるのを記念した事業「2009賀川豊彦献身100年 平和・人権・共生」のプロジェクトが計画されている。来年には講演会やシンポジウムなどの多彩な催しが展開される。(2面に関連記事)

思想と実践学び未来へ

21歳で救貧活動

1909年12月24日、21歳だった賀川は、当時日本最大のスラムとされた神戸・新川に移り住み、キリスト教の伝道をしなから、「友愛」の精神に基づきさまざまな救貧活動を実践していった。

その後、一大ベストセラーとなった自伝小説「死線を越えて」を出版、「コープこうべ」の前身となる「神戸購買組合」「難購買組合」などの生協を設立した。また関西の労働運動の中心的な存在として、日



賀川豊彦(賀川豊彦記念松沢資料館提供)

本最大規模と言われた神戸の三菱・川崎両造船所の大争議を指導する一方、「日本農民組合」を設立。

さらに関東大震災後、東京に移って救貧活動を推進、生協の設立に加え金融、保険、医療の分野にも活動を広げた。太平洋戦争後、内閣参事、貴族院議員に就任するなど、中央政界にも発言権を有した。生協法制定に尽力し、51年に日本生活協同組合連合会(日本生協連)を創立し初代会長に就任、71歳で他界するまで務めた。

未来へつなげるプロジェクトは、こうした多方面の賀川の活動の原点となる「献身」から100年になるのを機に、賀川が関係したさまざまな団体が集まり、賀川の生涯と思想、理論と

(JA共済連)理事長、連合会長、共栄火災海上保険社長らのほか、国際基督教大や桜美林学園などの理事長や学園長ら教育関係者も多。

100年シンポジウム

一方、神戸プロジェクトでは、委員長に今井鎮雄・神戸YMCA顧問、顧問に井戸敏三兵庫県知事、矢田正樹神戸市長がそれぞれ就任。幹事に浅田克己・コープこうべ組合長理事らが就いているほか、やはり生協や教育、キリスト教関係者らが委員として参加している。

事業計画によると、東京プロジェクトは、オーピングとして来年2月28日に東京・渋谷の青山学院での記念礼拝からスタート。4月29日には東京・白金の明治学院大で「平和・人権・共生をテーマにシンポジウムを計画する。

また来年12月22日には、神戸プロジェクトが記念式典・記念講演会の開催を神戸市のポートピアホテルで予定する。この間、日本未出版著書の出版や子ども向けの漫画の製作のほか、両プロジェクトがラジオでの連続講演、賀川の詩の弾き語りやCD化、写真展、映画「死線を越えて」の上映運動など多彩



「賀川豊彦献身100年」のロゴマーク

千思万想

10月号の全国大学生協連50周年、11月号のロバート・オーエン没後150周年、今月号の賀川豊彦献身100年と立て続けに取材、執筆した。周年に引かれて、歴史を振り返りながら安易な多々反省はしている。

とはいえ、何かをきっかけにして過去を振り返ることは決して無意味ではないと思ふ。今日、そして未来のため、歴史を見つめ直すことは、とても大切なことだ。

人間は多くの間違いを犯しながら進歩してきた。人権の獲得、奴隷制度や人身売買、強制連行、身分差別、男女差別などの暗い過去とそれらを克服する過程を振り返るべきだ。返るべきは歴史の事実を覆い隠すことなく、見つめ続けることだ。人間の社会は進歩してきた。戦後まで人身売買が横行していたと言われている。この間の取材で、何となく聞きたのは「生協は原点に返るべきだ」という言葉だ。生協は賀川豊彦の精神にこそある。だから今と未来を探る手がかりは賀川の原点にある。

生協は賀川の原点にある。だから今と未来を探る手がかりは賀川の原点にある。

まさに「温故知新」

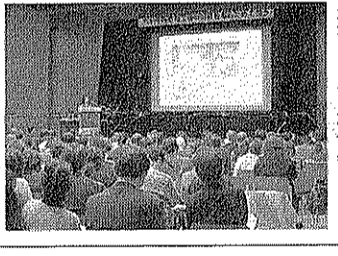
本でも、戦後まで人身売買が横行していたと言われている。この間の取材で、何となく聞きたのは「生協は原点に返るべきだ」という言葉だ。生協は賀川豊彦の精神にこそある。だから今と未来を探る手がかりは賀川の原点にある。

生協は賀川の原点にある。だから今と未来を探る手がかりは賀川の原点にある。

全国ネット 六ヶ所村再処理工場 稼働中止を求め集会

パルシステム連合会や生活クラブ連合会などが呼びかけ団体となり、青森六ヶ所村の核燃料再処理工場の稼働中止を求めている「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワークは11月29日、東京都港区のドイツ文化会館で集会を開いた。

呼びかけ団体となり、青森六ヶ所村の核燃料再処理工場の稼働中止を求めている「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワークは11月29日、東京都港区のドイツ文化会館で集会を開いた。



「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワークが開いた市民集会(11月29日、東京都港区のドイツ文化会館)

年末回顧 「食」で揺れた節目の年

冷凍ギョーザ、偽装...

か、有識者による検証委員会を立ち上げ、事件対応などを検証。「足元を固める」(矢野和博専務理事)として、6月の通常総会では、組織を見直し、100人規模の増員

現実の問題として認識させる結果にもなった。

国産志向が上昇

事件は加工輸入食品の検査体制の甘さや、中国国内の農薬管理のずさん

率への関心も高まり、各地域生協では「産直」「地産地消」の活動を活性化。パルシステム連合会の年間キャンペーン「100万人の食づくり運動」、エフコープと全

関心は高まり、組合員から各生協への問い合わせなども急増しているといふ。11月の大阪市の食育イベント「たべる、たせつフェスティバル2008」(日本生協連主催)も、広域生協誕生が現実のものとなった。

運動やレシ袋削減などで、各生協はそれぞれの地域で中心的な役割を果たした。

08年は全国大学生協同組合連合会が創立、法人化50周年を迎え、新た